



## 企業人の 仕事観



再エネ企業で活躍する人の  
仕事観に迫る新コーナー。  
第1回は有力EPC企業、エコスタイルの  
東良真男執行役員である。

### — 志望動機は。

前職では自家用電気工作物の保安業務や一般用電気工作物の電気工事に携わっていたので、当時、住宅用太陽光発電設備を施工していた当社に関心を持った。

### — 入社後の経歴は。

入社して10年になるが、一貫してEPC(設計・調達・建設)やO&M(管理・保守)を手掛けてきた。最初の1年は住宅用太陽光発電の業務に就いたが、当社が低圧太陽光発電所の開発に展開していったので、立ち上げ当初から施工部に配属され、太陽光発電所を建設してきた。やがて大阪北支店と名古屋支店で課長を務め、現在は西日本エリアの施工を管理している。

### — 業務で苦勞した点は。

工事の受注が増え、協力業者に施工してもらうために施工管理することになったが、その際、品質の統一化を図るのに苦勞した。標準仕様書や施工マニュアルを作成したり、定期的に勉強会を開いたり、情報を共有し、少しずつ品質を高めていった。今では信頼できる協力業者が100社程ある。

### — 顧客や取引先など社外の人とどう接する?

誠実に対応すること。協力業者



プロフィール ● 1984年京都府生まれ。2013年エコスタイルに入社。大阪北支店と名古屋支店の課長を経て、17年に西日本施工部長に就任。22年7月より現職。

にも気持ちよく仕事をしてもらうようにコミュニケーションには気を配っている。

### — 上司との接し方は。

仕事の指示を受ける際は、自らもよく考えて取り組むように意識している。特にトラブルやミスが生じた際は、責任を逃れたいと思うがために、過小に報告する人もいますが、後に大きな問題に発展しかねないので、私は真っ先に上司に報告するようになってきた。

### — 同僚との接し方は。

チームの結束力を高めるため、普段からお互いが仕事を協力して進めやすくなるような雰囲気づ

くりを大切にしている。個性豊かな同僚たちがまとまるには、それぞれの性格や特徴を把握しておくことも重要だと思う。

### — 部下との接し方は。

部下の主体性がそがれてしまわないように、敢えて細かい指導や管理を控えることもある。自ら試行錯誤して業務を遂行することによって、部下にとっての学びもあるし、私自身も部下から学ぶこともある。

### — どのような点が会社で評価されたように思うか。

敢えて言うならば、上司からの指示に対して、できない理由を探す前に、どのようにしたらできるのか、愚直に考えて行動してきたところではないだろうか。

### — 仕事のやりがいは。

現場で太陽光発電所を施工していたときは、お客様と直接触れ合う機会があったので、納品した際に感謝されたときはとてもやりがいを感じた。やがて管理職に就き、今では現場からは遠ざかっているが、“非FIT、案件の受注が増えている現状を目の当たりにして、着々と再生可能エネルギーが増えていることに喜びを感じる。

### — 仕事のモチベーションはどう維持している?

何事にも挑戦するように心掛けている。失敗を繰り返しても、そこから学びがあり、経験を積み、やがて大きな壁に遭遇しても、乗り越えていけるようになる。それを実感し続けることが、モチベーションの維持に繋がる。だから、困難から逃げ出さず、常に挑戦だと思って、目の前の仕事に実直に取り組むようにしている。

# 「モチベーションの維持は、挑戦し続けること」

エコスタイル 東良 真男 執行役員 西日本施工部長